

特別活動

目 次

1	特別活動改訂のポイント	1
2	特別活動の目標のポイント	3
3	学級活動の目標と内容のポイント	3
4	生徒会活動の目標と内容のポイント	8
5	学校行事の目標と内容のポイント	11
6	特別活動の指導計画作成上のポイント	13
7	指導例	15

1 特別活動改訂のポイント

(1) 改善の基本方針

- 特別活動と道徳、総合的な学習の時間のそれぞれの役割を明確にし、特によりよい人間関係を築く力、社会に参画する態度や自治的能力の育成を重視する。また、道徳的実践の指導の充実を図る観点から、目標や内容を見直す。
- 各内容に係る活動を通して育てたい態度や能力を、特別活動の全体目標を受けて各内容の目標として示す。
- 生徒の自主的、自発的な活動を一層重視するとともに、発達や学年の段階、課題に即した内容を示すなどして、重点的な指導ができるようにする。その際、道徳や総合的な学習の時間などとの有機的な関連を図ったり、指導方法や教材を工夫したりする。
- 体験活動や生活を改善する話し合い活動、多様な異年齢の生徒からなる集団による活動を一層重視する。特に体験活動については、体験を通して感じたり、気付いたりしたことを振り返り、言葉でまとめたり、発表し合ったりする活動を重視する。



改善のポイント

(ア) 学級活動について

- ・「(1)学級や学校の生活づくり」、「(2)適応と成長及び健康安全」、「(3)学業と進路」の三つの内容から構成する。
- ・自らよりよい学校生活の実現に取り組む意欲の向上、集団や社会の一員としての守るべきルールやマナーの習得、望ましい勤労観・職業観の育成、将来への希望と自立といった人間としての生き方の自覚などにかかわる事項に重点を置き、内容を整理する。
- ・いわゆる中1ギャップが指摘されるなど集団の適応にかかわる問題や思春期の心の問題の重要性に鑑み、よりよい人間関係を築くための社会的スキルを身に付けるための活動を効果的に取り入れる。特に、中学校入学時には、小学校との接続に配慮して、指導の重点化を図る。

(イ) 生徒会活動について

- ・学校内外における異年齢の子どもたちからなる集団による健全な人間関係の広がり、よりよい学校生活を主体的に築こうとする自治的能力や責任感の育成を重視する観点から、具体的な内容を示す。

(ウ) 学校行事について

- ・職場体験、奉仕体験、文化的な体験などの体験活動を重視する観点から、学校行事の内容について改善を図る。

(2) 改訂の要点

- | |
|--|
| ・よりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる教育活動であることをより一層明確にするため、「人間関係」を加えた。 |
|--|

目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集団や社会の一員として、協力して学校生活の充実と発展に主体的にかかわる教育活動としての意義を明確にした。 ・ 各内容についても、全体の目標を受けて各内容の目標を新たに示すことにより、それぞれの教育活動としてのねらいと意義を明確にした。
各活動・学校行事の内容	<p>学級活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学級活動を通して育てたい態度や能力を新たに目標として示した。 ・ 活動内容について、「(1)学級や学校の生活づくり」、「(2)適応と成長及び健康安全」、「(3)学業と進路」の三つの内容から整理するとともに、いわゆる中1ギャップが指摘されるなど集団の適応にかかわる問題や思春期の心の問題、社会的な自立を目指す教育活動を充実する観点から、内容項目の改善を図った。 <p>生徒会活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒会活動を通して育てたい態度や能力を目標として示した。 ・ 活動内容について、「(1)生徒会の計画や運営」、「(2)異年齢集団による交流」、「(3)生徒の諸活動についての連絡調整」、「(4)学校行事への協力」、「(5)ボランティア活動などの社会参加」の五つを示し、それぞれの活動の内容を明確にするとともに、生徒の自発的、自治的な活動の充実を図った。 <p>学校行事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校行事を通して育てたい態度や能力を目標として示した。 ・ 「勤労生産・奉仕的行事」について職場体験を重視するとともに、奉仕体験の意義を明確にした。 ・ 「学芸的行事」を「文化的行事」に改めた。
指導計画の作成と内容の取扱い	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「特別活動の全体計画や各活動・学校行事の年間指導計画の作成」について明確に示し、作成に当たっては、「各教科、道徳及び総合的な学習の時間などの指導との関連を図る」を加えた。 ・ 「特に、中学校入学当初においては、個々の生徒が学校生活に適応するとともに、希望と目標をもって生活をできるよう工夫すること。」を加えた。 ・ 「第1章総則の第1の2及び第3章道徳の第1に示す道徳教育の目標に基づき、道徳の時間などとの関連を考慮しながら、第3章道徳の第2に示す内容について、特別活動の特質に応じて適切な指導をすること。」を示した。 ・ 学級活動及び生徒会活動について、「内容相互の関連を図るよう工夫する」とともに、「よりよい生活を築くために集団としての意見をまとめるなどの話し合い活動や自分たちできまりをつくって守る活動、人間関係を形成する力を養う活動などを充実するよう工夫すること。」を加えた。 ・ 学級活動については、各活動内容に示したいずれの内容項目も各学年ごとに扱うが、その内容の取扱いに当たっては、「学校、生徒の実態及び道徳教育の重点などを踏まえ」とともに、「内容間の関連や統合を図ったり、他の内容を加えたりすることができること。」を示した。 ・ 学校行事の実施に当たっての配慮事項として、体験活動や言語活動の充実を図る観点から「体験活動を通して気付いたことなどを振り返り、まとめたり、発表し合ったりするなどの活動を充実するよう工夫すること。」を加えた。

2 特別活動の目標のポイント

(1) 特別活動の目標

望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。

目標として、以下の5点を目指している。

- ① 望ましい集団活動の展開と望ましい集団の育成
- ② 個人的な資質の育成
- ③ 社会的な資質の育成
- ④ 自主的、実践的な態度の育成
- ⑤ 人間としての生き方の自覚と自己を生かす能力の育成

(2) 特別活動の基本的な性格と教育的意義

特別活動は、複雑で変化の激しい社会での生き方などを体験的に学ぶ重要な場や機会として、学校教育において、望ましい集団活動や体験的な活動を通して、実際の社会で生きて働く社会性を身に付けるなど、生徒の人間形成を図る教育活動である。特に、以下の2点を重要視している。

- ① 学校における集団活動や体験的な活動の一層の充実
- ② 発達段階を踏まえた指導の充実

中学生の時期には、自我の目覚めや心身の発達により自主独立の要求が高まることから、生徒の自発的、自治的な活動をできるだけ尊重し、生徒が自らの力で組織を作り、活動計画を立て、協力し合って望ましい集団活動を行うように導くことが大切になる。しかし、生徒の自主性が高まるとはいえ、生活体験や社会体験もまだ十分でなく、自分の考えにも十分な自信がもてない時期でもあるため、当然教員の適切な指導や個別的な援助などが必要である。そのためには、生徒の心情をよく理解するとともに、指導・援助の在り方の工夫に努め、生徒の自主的、実践的な活動を促していくことが大切である。

3 学級活動の目標と内容のポイント

(1) 学級活動の目標

学級活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一員として学級や学校におけるよりよい生活づくりに参画し、諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度や健全な生活態度を育てる。

(2) 学級活動の内容

学級を単位として、学級や学校の生活の充実と向上、生徒が当面する諸課題への対応に資する活動を行う。

○ 「(1)学級や学校の生活づくり」

この活動内容は、学級活動の基礎をなすものであり、学級成員に共通する様々な問題を取り上げ、自主的、実践的な活動を通して学級や学校生活づくりを図る。

ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決

学級や学校での生活の充実と向上を図るため、そこで生じる人間関係や生活上の様々な問題について、生徒一人一人が学級や学校の一員としての自覚と責任に基づき、協力して解決していこうとする自主的、実践的な活動を進めていく。

イ 学級内の組織づくりや仕事の分担処理

学級の目標や組織づくり、仕事の役割分担やルール、学級生活の充実のための工夫などについて題材を設定し、グループや学級全体で話し合っていく。

ウ 学校における多様な集団の生活の向上

生徒会活動や学校行事への参加や協力、学年の目標と協力、異年齢集団の意義、集団生活のマナーとルールなどについて題材を設定し、生徒相互の話合いや体験発表、上級生などの経験等を活用したガイダンス、地域の文化・スポーツ団体やボランティア団体の人々などを招いての講話などを展開していく。

○ 「(2)適応と成長及び健康安全」

この活動内容は、生徒一人一人が人間としての生き方について幅広く探求し、心身の健康の保持増進に努め、豊かな人間性や個性の育成を図るとともに、社会の成員として必要とされる資質や能力を培っていくためのものである。

ア 思春期の不安や悩みとその解決

自分が不安に感じること、悩みとその解決方法、身近な人の青年時代などの題材を設定し、生徒が自由に話し合ったり、先輩や身近な大人にインタビューして発表したり話し合ったりするなど様々な方法が考えられる。

イ 自己及び他者の個性の理解と尊重

入学直後や学級編成替えなどにより新たな人間関係を築くことが求められる時期には、自分の長所・短所、友人への期待と励まし、自他の個性を知りそれを生かす方法などの題材を設定し、自らを振り返ると同時にグループや学級全体で話し合う活動などが考えられる。

ウ 社会の一員としての自覚と責任

集団生活におけるルールやマナー、自由と責任及び権利と義務、情報化社会におけるモラルなどの題材を設定し、道徳の時間との関連も図りながら展開していくことが重要である。また、その時々学級や学校における生活上の問題、地域における身近な出来事、新聞やビデオ等の資料などを取り上げ、話合いやディベート、パネルディスカッションなどにより展開していくことも考えられる。

エ 男女相互の理解と協力

男女相互の理解と協力、人間の尊重と男女の平等、男女共同参画社会と自分の生き方などの題材を設定し、アンケートやインタビューをもとに話し合ったり、新聞やテレビ等の資料をもとに話し合ったり討論したりして展開していくことが考えられる。

オ 望ましい人間関係の確立

望ましい人間関係の在り方、豊かな人間関係づくりと自己の成長、自己表現とコミュニケーション能力などの題材を設定し、ロールプレイングや体験発表を取り入れた話合い、自己表現力やコミュニケーション能力を高める体験的な活動、学級成員等の親睦を深める活動など、様々な展開の工夫が考えられる。

カ ボランティア活動の意義の理解と参加

社会福祉活動、環境保全・保護活動、災害援助活動、地域のコミュニティーづくり、国際社会への貢献・協力など、ボランティア活動の様々な場面や実際について紹介したり、ボランティア活動に携わっている人を招いての講話や生徒のボランティア体験談などを聞き、ボランティア活動の意義の理解を深めることなどが考えられる。

キ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成

身近な視点から、心の健康や体力の向上に関する事、口腔の衛生、生活習慣病とその予防、食事・運動・休養の効用と余暇の活用などの問題を考え意見を交換できるような話合いや討論、実践力の育成につながるロールプレイングなどの方法を活用して展開していくことが考えられる。

ク 性的な発達への適応

思春期の心と体の発育・発達に関する事、性情報への対応や性の逸脱行動に関する事、エイズや性感染症などの予防に関する事、友情と恋愛と結婚などについて、生徒の発達段階等を踏まえた題材を設定し、資料等をもとにした話合いや討論、専門家の講話を聞くなどの活動の展開が考えられる。

ケ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成

給食の時間においては、楽しく食事をすること、栄養の偏りのない食事のとり方などに関する指導により望ましい食習慣の形成を図るとともに、食事を通しての好ましい人間関係の育成を図る。望ましい食習慣の形成については、家庭との連携を図るとともに、家庭の中でも話し合えるような題材を設定していくことが大切である。

○ 「(3) 学業と進路」

この活動内容は、生徒の現在及び将来の生き方を考える基盤になるものであり、学年の段階やその系統性を踏まえ、また各教科等の教育活動と有機的に関連させて、取り上げる題材について工夫する。

ア 学ぶことと働くことの意義の理解

充実した人生と学習、学ぶことや働くことの楽しさと価値、学ぶことと職業などについて題材を設定し、保護者や卒業生など自分の身のまわりの人、働きながら学んでいる人、地域の職業人、あるいは生涯学習に取り組む人々などの体験談などを取り入れながら、自分なりの考えをまとめ、発表したり、話し合ったり、ディベートを行ったりする活動など

が考えられる。

イ 自主的な学習態度の形成と学校図書館の利用

学習意欲と学習習慣、自ら学ぶ意義や方法などについて題材を設定し、なぜ意欲をもって、楽しく取り組むことができたのかを話し合う活動の展開などが考えられる。その際、学校図書館の意義や役割に気づき、積極的に活用する態度を養う。また、不得意教科の克服、自分にふさわしい学習方法などの題材を設定し、教科学習等での悩みを率直に出し合い、学級の問題として受け止め、話し合い、実行し、成果を確かめ合うといった活動の展開も考えられる。

ウ 進路適正の吟味と進路情報の活用

自分のよさの発見、職業と適性などについて題材を設定し、自分の興味・関心、得意な教科の学習や活動、性格や行動など多面的に自分自身を見つめたり、生徒が互いのよさを見つめ合い、確かめ合ったりする活動の展開や職業適性検査等を活用して、個性を生かす職業について考える活動の展開が考えられる。また、生き方を学ぶ、進路に応じた学習機会の選択、学校調べなどについて題材を設定し、地域の社会人や職業人の講話を聞いたり、勤労や奉仕の体験を通して、生き方や進路の多様性を理解する活動の展開が考えられる。

エ 望ましい勤労観・職業観の形成

自分の役割と生きがい、働く目的と意義、身近な職業と職業選択などの題材を設定し、調査やインタビューをもとに話し合ったり、発表やディベートを行ったりするなどの活動の展開が考えられる。また、地域の職業調べや職場体験や介護体験等との関連を図りながら、調査、話し合い、感想文の作成、発表を行うといった活動の展開が考えられる。

オ 主体的な進路の選択と将来設計

自分の夢や希望、人生と生きがい、30年後の私などについて題材を設定し、地域の職業人や福祉団体関係者の講話と感想文の作成、発表、話し合いといった活動の展開、ライフプランの作成や進路計画を立案し、発表する活動の展開などが考えられる。

(3) 学級活動の指導計画

- 学校の創意工夫を生かすとともに、学校の実態や生徒の発達の段階などを考慮し、生徒による自主的、実践的な活動が助長されるようにする
- 各教科、道徳および総合的な学習の時間などの指導との関連を図る

学級活動における話し合い活動の充実のためには、国語科や社会科などの各教科での学習を生かすことが必要である。

- 家庭や地域の人々との連携、社会教育施設等の活用などを工夫する

保護者や家庭などの個人情報やプライバシーなどの問題に十分留意して指導計画を作成する必要がある。指導内容によっては、関係機関等の専門家などから話を聞くなど積極的に地域の人材を活用する。

- 生徒指導及び教育相談の充実を図る

生徒指導の機能を十分に生かすとともに、教育相談（進路相談を含む。）についても、生徒の家庭との連絡を密にし、適切に実施できるようにする。

- ガイダンスの機能を充実する

生徒の実態に応じ、いわゆる中1ギャップによる学校不適応等に十分配慮し、また、小学校高学年の学級活動との接続も図って、生徒に希望や目標をもたせるとともに、達成感を味わわせることができるよう工夫する。

- 年間指導計画の作成

学校として3学年間を見通した各学年ごとの年間指導計画を作成する。さらに、学級の実態に応じた学級ごとの年間指導計画や1単位時間の指導計画を作成する。内容としては、次のようなものが考えられる。

- ・ 学校や学年、学級の指導目標
- ・ 育てたい力
- ・ 指導内容（予想される議題やテーマ）と時期
- ・ 指導の時間配当
- ・ 指導方法
- ・ 指導教材（必要に応じて）
- ・ 評価 など

- 学級活動に充てる授業時数

- ・ 年間35単位時間である。
- ・ 「朝の会」や「帰りの会」等の時間における指導は、学習指導要領で定める学級の時間とは明確に区別できるように留意すべきである。
- ・ 給食時間における指導は特別活動の標準授業時数には含まれない。

（４） 学級活動の内容の取扱い

- 指導内容の特質に応じて、教員の適切な指導の下に、生徒の自発的、自治的な活動が効果的に展開されるようにする
- よりよい生活を築くための諸活動の充実

ア 集団としての意見をまとめるなどの話し合い活動を充実する。

小学校の学級活動で身に付けた話し合い活動に関する議題の選択、話し合いの方法、役割分担などの経験を生かすとともに、ブレインストーミングやディベートなどを通じて、意見の異なる人と議論して協同的に問題解決をする方法を身に付ける。

イ 自分たちできまりをつくって守る活動を充実する。

集団の意志決定に主体的にかかわり、その決定を尊重するという活動を通して、生徒は集団の一員としての自覚を高め、自主的、実践的な態度を身に付けていく。

ウ 人間関係を形成する力を養う活動を充実する。

好ましい人間関係やよりよい集団生活を形成するのに必要な社会的なスキルを学ぶ場を適宜設ける。

○ 指導内容の重点化と内容間の関連や統合などの工夫

- ・各学年において取り上げる指導内容の重点化を図ること。
- ・必要に応じて内容間の関連や統合を図ったり、他の内容を加えたりすることができる。
- ・個々の生徒についての理解を深め、信頼関係を基礎に指導を行うこと。

4 生徒会活動の目標と内容のポイント

(1) 生徒会活動の目標

- 生徒会活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団や社会の一員としてよりよい学校生活づくりに参画し、協力して諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度を育てる

(2) 生徒会活動の内容

学校の全生徒をもって組織する生徒会において、学校生活の充実と向上を図る活動を行う。

○ 生徒会の計画や運営

この活動内容は、生徒会活動の計画や運営に関しての、学校内で行われる生徒会としてのあらゆる活動を意味する。

学校生活の充実や改善向上を図るために、継続的に行われる具体的な活動

- ア 学校生活における規律とよき校風の確立のための活動
- イ 環境保全や美化のための活動
- ウ 生徒の教養や情操の向上のための活動
- エ 好ましい人間関係を深めるための活動
- オ 身近な問題の解決を図るための活動

○ 異年齢集団による交流

異年齢集団による交流を活性化する活動として、新入生を迎える会や卒業生を送る会、校内球技大会、各種のレクリエーションなどの行事にかかわる活動などが広く考えられる。さらに、社会の一員としての自覚を深めるために、学校内だけでなく学校外まで広がっていくことも大切である。例えば、小学生や、幼稚園や保育所に通う幼児との交流活動や地域の高齢者等との交流などが考えられる。

○ 生徒の諸活動についての連絡調整

生徒会の行事とのかかわりにおける各学級との連絡調整、放課後等に行われる生徒の自発的、自治的な活動としての部活動などの年間計画を通じた活動の計画の調整、利用する施設設備、活動の時間などの調整などが考えられる。

○ 学校行事への協力

行事の内容に応じて計画や実施に積極的に協力し、参加する。生徒会でも実行委員会などを組織し話し合ったり、各種の委員会等の活動の中に学校行事への協力を位置付けたりすることで、生徒一人一人が学校行事に参加し協力する意識が高まる。

○ ボランティア活動などの社会参加

生徒会の呼びかけなどによるボランティア活動、例えば、地域の福祉施設や社会教育施設等での様々なボランティア活動、また、有意義な社会的活動への参加・協力（地域の文化・スポーツ行事、防災や交通安全など）、さらに、学校間の交流、幼児や高齢者との交流、障害のある人々などとの交流及び共同学習など、地域や学校、生徒の実態に応じて多様な活動が考えられる。

(3) 生徒会活動の指導計画

○ 学校の創意工夫を生かすとともに、学校の実態や生徒の発達の段階などを考慮し、生徒による自主的、実践的な活動が助長されるようにする

○ 各教科、道徳及び総合的な学習の時間などの指導との関連を図る

各種委員会の活動方針や計画の作成等に当たって、道徳や各教科、総合的な学習の時間との関連も図り、活動のねらいを明確にしたり、活動する内容に広がりをもたせたりする。

○ 家庭や地域の人々との連携、社会教育施設等の活用などを工夫する

各学校が、家庭や地域との連携を深め、その教育力の活用を図ったり、地域の自然や文化・伝統を生かしたり、社会教育施設等を活用した教育活動を展開していく。

○ 生徒指導の機能を生かす

○ 年間指導計画の作成

年間指導計画に示す内容としては、次のものが考えられる。

- ・学校における生徒会活動の目標
- ・生徒会の組織と構成
- ・活動時間の設定
- ・年間に予想される主な活動
- ・活動場所
- ・活動に必要な備品、消耗品
- ・指導上の留意点
- ・生徒会役員会、各委員会を指導する教職員の指導体制
- ・評価 など

○ 生徒会の組織

生徒会の組織は、学校の全生徒にかかわる広がりを持ち、その運営は学級活動や他の諸活動とも深く関連する。生徒がそれぞれの役割を分担し、活動の計画を立てて自主的に実践する場や機会が豊富であることが重要である。

○ 生徒会活動に充てる授業時数

生徒の異年齢集団による自発的、自治的な活動を一層活発に行えるようにするため、学級活動との関連も図りつつ、活動に必要な場や機会を年間通じて計画的に確保するよう留意すべきである。

(4) 生徒会活動の内容の取扱い

- 指導内容の特質に応じて、教員の適切な指導の下に、生徒の自発的、自治的な活動が効果的に展開されるようにする
- 内容相互の関連を図るようにする

生徒会の行事は、その準備の時間も含め、学級活動や学校行事などとの関連も図って、学校の年間計画の中に位置付ける。また、「生徒評議会（中央委員会など）」や「各種の委員会」の活動については、学級活動との関連を図り、特定の曜日などを決めて開催したり、その活動内容を発表する機会をもつようにしたりする。

○ よりよい生活を築くための諸活動の充実

ア 集団としての意見をまとめるなどの話し合い活動を充実する。

小学校での学級活動や児童会活動における話し合い活動の経験を生かすとともに、生徒会役員や各種の委員会の委員長等がリーダーシップを十分に発揮して、話し合いの準備を進める必要がある。そのため、生徒会のリーダー研修会や会議運営の講習会等を計画的に実施していく。

イ 自分たちできまりをつくって守る活動を充実する。

学校生活の規律を守るためのきまり、校内の美化を保持するためのきまりなどをつくって守る活動は、各種の委員会や学年などの限られた集団だけで取り組むのではなく、生徒会全体として生徒一人一人ができることは何かを考えていくことが大切である。

ウ 人間関係を形成する力を養う活動を充実する。

生徒総会や各種の委員会など、他の学年の人とかかわる活動、ボランティア活動など、学校外の人とかかわる活動が考えられ、学校内外における異年齢集団活動を積極的に行うことが期待される。

5 学校行事の目標と内容のポイント

(1) 学校行事の目標

学校行事を通して、望ましい人間関係を形成し、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養い、協力してよりよい学校生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。

(2) 学校行事の内容

全校又は学年を単位として、学校生活に秩序と変化を与え、学校生活の充実と発展に資する体験活動を行う。

○ 儀式的行事

学校生活に有意義な変化や折り目を付け、厳粛で清新な気分を味わい、新しい生活の展開への動機付けとなるような活動を行う。

入学式、卒業式、始業式、終業式、修了式、立志式、開校記念に関する儀式、新任式、離任式など

○ 文化的行事

平素の学習活動の成果を発表し、その向上の意欲を一層高めたり、文化や芸術に親しんだりするような活動を行う。

文化祭（学芸会）、学習発表会、音楽会（合唱祭）、作品発表会（展覧会）、音楽鑑賞会、映画や演劇の鑑賞会、伝統芸能等の鑑賞会や講演会など

○ 健康安全・体育的行事

心身の健全な発達や健康の保持増進などについての理解を深め、安全な行動や規律ある集団行動の体得、運動に親しむ態度の育成、責任感や連帯感の涵養、体力の向上などに資するような活動を行う。

健康診断、薬物乱用防止指導、防犯指導、交通安全指導、避難訓練や防災訓練、健康・安全や学校給食に関する意識や実践意欲を高める行事、運動会（体育祭）、競技会、球技会など

○ 旅行・集団宿泊的行事

平素と異なる生活環境にあって、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、集団生活の在り方や公衆道徳などについての望ましい体験を積むことができるような活動を行う。

遠足、修学旅行、移動教室、集団宿泊、野外活動など

○ 勤労生産・奉仕的行事

勤労の尊さや創造することの喜びを体得し、職場体験などの職業や進路にかかわる啓発的な体験が得られるようにするとともに、共に助け合って生きることの喜びを体得し、ボランティア活動などの社会奉仕の精神を養う体験が得られるような活動を行う。

職場体験、各種の生産活動、上級学校や職場の訪問・見学、全校美化の行事、地域社会への協力や学校内外のボランティア活動など

(3) 学校行事の指導計画

○ 学校の創意工夫を生かすとともに、学校の実態や生徒の発達の段階などを考慮し、生徒による自主的、実践的な活動が助長されるようにする

- ・ 集団生活の充実、自然との触れ合いや本物の文化や芸術に触れたり鑑賞したりする活動、勤労や奉仕にかかわる体験的な活動などが一層充実されるように、学校の創意工夫を生かした指導計画の作成が行えるように配慮する。
- ・ 小学校段階での学校行事の成果や生徒の経験を生かしてより発展的な教育活動を展開していくこと。そのためには、小学校との連絡や連携を十分に図る。

○ 各教科、道徳及び総合的な学習の時間などの指導との関連を図る

総合的な学習の時間や各教科等において行われる3学年間にわたる体験活動の相互の関連やバランスを考えるとともに、接続する小学校や高等学校において実施される体験活動との関連にも留意する。

○ 家庭や地域の人々との連携、社会教育施設等の活用などを工夫する

家庭や地域の人々との連携深め、その教育力の活用を図ったり、地域の自然や文化、伝統を生かしたり、社会教育施設等を活用したりする活動が展開できるよう工夫する。

○ 生徒指導の機能を生かす

○ 年間指導計画の作成

- ・ 年間指導計画には、学期ごと、月ごとなどに、実施予定の行事名、指導時数、参加の対象、目標、実施の内容、他の教育活動との関連などを取り上げる。
- ・ 個別の行事指導計画においては、ねらい、内容（事前、当日、事後）、実施の時期、場所、時間、指導上の留意事項、評価の観点などを取り上げる。

○ 学校行事に充てる授業時数

学校行事のねらいが実現できるよう、各教科等との関連も図りつつ、各学校が創意工夫を

発揮して適切な授業時数を充てる。

(4) 学校行事の内容の取扱い

- 特色ある学校行事の創意工夫をすること
- 各種類ごとの重点化や行事間の関連や統合を図り精選すること

旅行・集団宿泊的行事として実施される遠足や修学旅行に、文化的行事のねらいを積極的に取り入れたり、勤労生産・奉仕的行事の勤労体験や地域社会へ貢献する活動あるいは各教科等の学習活動を関連付けたりするなど様々な創意工夫の発揮が望まれる。

- 地域の人々との交流を図る行事を工夫すること

学校行事に幼児、高齢者、障害のある人々を招待して一緒に交流したり、地域の関係施設や関係団体等との連携を図ったりして、人間的な触れ合いを深め共に学ぶことができるような活動内容を工夫していく。また、他の中学校や保育所、幼稚園、小学校、高等学校、特別支援学校などとの交流や文通など、様々な取組の充実が考えられる。

- 自然体験や社会体験などの体験活動を充実すること
- 体験活動を通して気付いたことなどを振り返り、まとめたり、発表し合ったりする活動を充実すること

体験を通して感じたり気付いたりしたことを自己と対話しながら振り返り、文章でまとめたり、発表し合ったりする活動を重視する。

6 特別活動の指導計画作成上のポイント

(1) 特別活動の全体計画と各活動・学校行事の年間指導計画の作成

- ア 全体計画に示す内容には、次のようなものが考えられる。
- 特別活動の重点目標
 - 学級活動、生徒会活動、学校行事の目標
 - 学級活動、生徒会活動、学校行事の全体的内容
 - 特別活動に充てる授業時数や設置する校内組織（校務分掌）
 - 学級活動に充てる授業時数
 - 各教科等との関連
 - 評価 など

特別活動と関連が深い朝の会や帰りの会、日常的に行われている清掃や日直などの当番活動、さらに、放課後等に生徒の自主的、実践的な活動として行われる部活動などがあるが、これらとの関連などについても、全体計画に示しておく。

イ 全体計画に基づいて、年間を通じた学級活動、生徒会活動、学校行事ごとの目標、その内容や方法、指導の流れ、時間の配当、評価などを示したものが、「各活動・学校行事の年間指導計画」である。

- ① 学校の創意工夫を生かす
- ② 学校の実態や生徒の発達の段階及び特性等を考慮する
- ③ 生徒による自主的、実践的な活動が助長されるようにする
- ④ 各教科、道徳及び総合的な学習などの指導との関連を図る
- ⑤ 家庭や地域の人々との連携、社会教育施設等の活用などを工夫する
- ⑥ 特別活動の授業時数については、学級活動の授業は、年間35週以上にわたって行うよう計画し、生徒会活動及び学校行事については、それらの内容に応じ、年間、学期ごと、月ごとなどに適切な授業時数を充てるものとする

(2) 入学式や卒業式などにおける国旗及び国歌の取扱い

入学式や卒業式などにおいては、その意義を踏まえ、国旗を掲揚するとともに、国歌を斉唱するよう指導するものとする。

(3) 特別活動の指導を担当する教員

○ 学級活動の場合

特別活動の充実のため、指導に当たる教員が留意すべき諸点

- ア 教員と生徒及び生徒相互の人間的な触れ合いを基盤とする指導であること。
- イ 生徒の問題を生徒と共に考え、共に歩もうとする教員の態度が大切であること。
- ウ 生徒に接する際には、常に温かな態度を保持し、公平かつ受容的で、生徒に信頼される教員であること。
- エ 教員の教育的な識見と適正な判断力を生かすとともに、問題によっては毅然とした態度で指導に当たる必要があること。
- オ 生徒の自主的、実践的な活動を助長し、常に生徒自身による創意工夫を引き出すように指導すること。
- カ 集団内の人間関係を的確に把握するとともに、人間尊重の精神に基づいて生徒が望ましい人間関係を築くように指導に努めること。

○ 学級活動以外の場合

- ア 生徒会活動の場合、全校の生徒の組織としての活動であるから、生徒会活動の全体の指導に当たる教員、各種の委員会の指導を担当する教員などを適切に定め、教員間の連携を緊密にし、協力しながら適切な指導を行うこと。
- イ 学校行事の場合、指導の対象となる生徒集団が大きいほか、特別活動の他の内容や各教科等の学習と関連する場合が多く、また、家庭や地域社会と連携して実施する場合もあるので、それぞれの学校行事の計画や指導の在り方を十分に検討するとともに、全教員の役割分担を明確にし、学校の指導体制の確立のもとに協力して指導に当たるようにすること。

(4) 特別活動における評価

生徒のよい点や進歩の状況などを積極的に評価するとともに、指導の過程や成果を評価し、指導の改善を行い学習意欲の向上に生かすようにする。

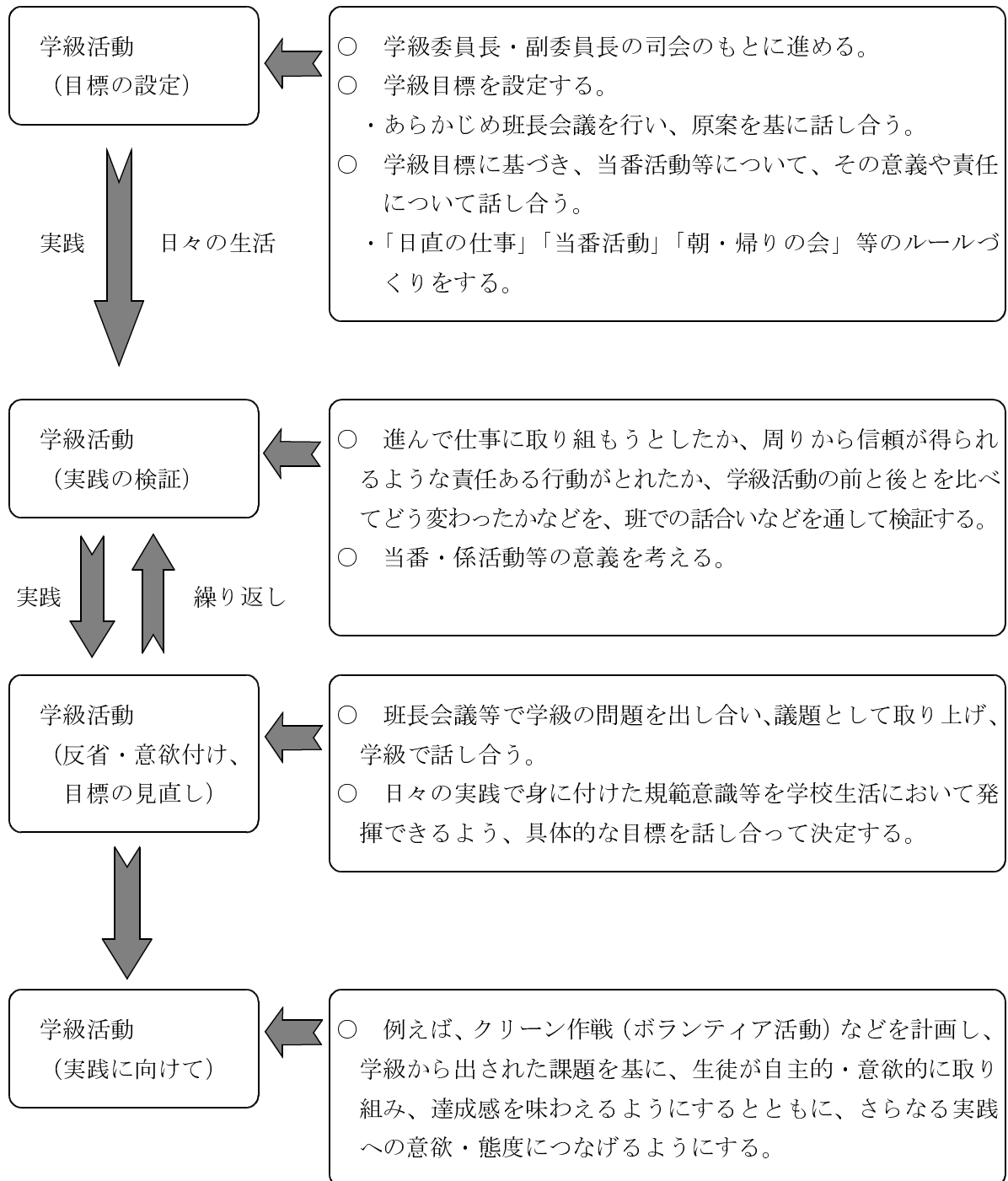
7 指導例

◆規範意識を高める学級活動の指導例

1 指導のねらい

- ・ 集団の一員として、学級や学校におけるよりよい生活づくりに参画する態度を育てる。
- ・ 学級や学校のルールづくりを通して、規範意識の向上を図る。

2 指導の展開例

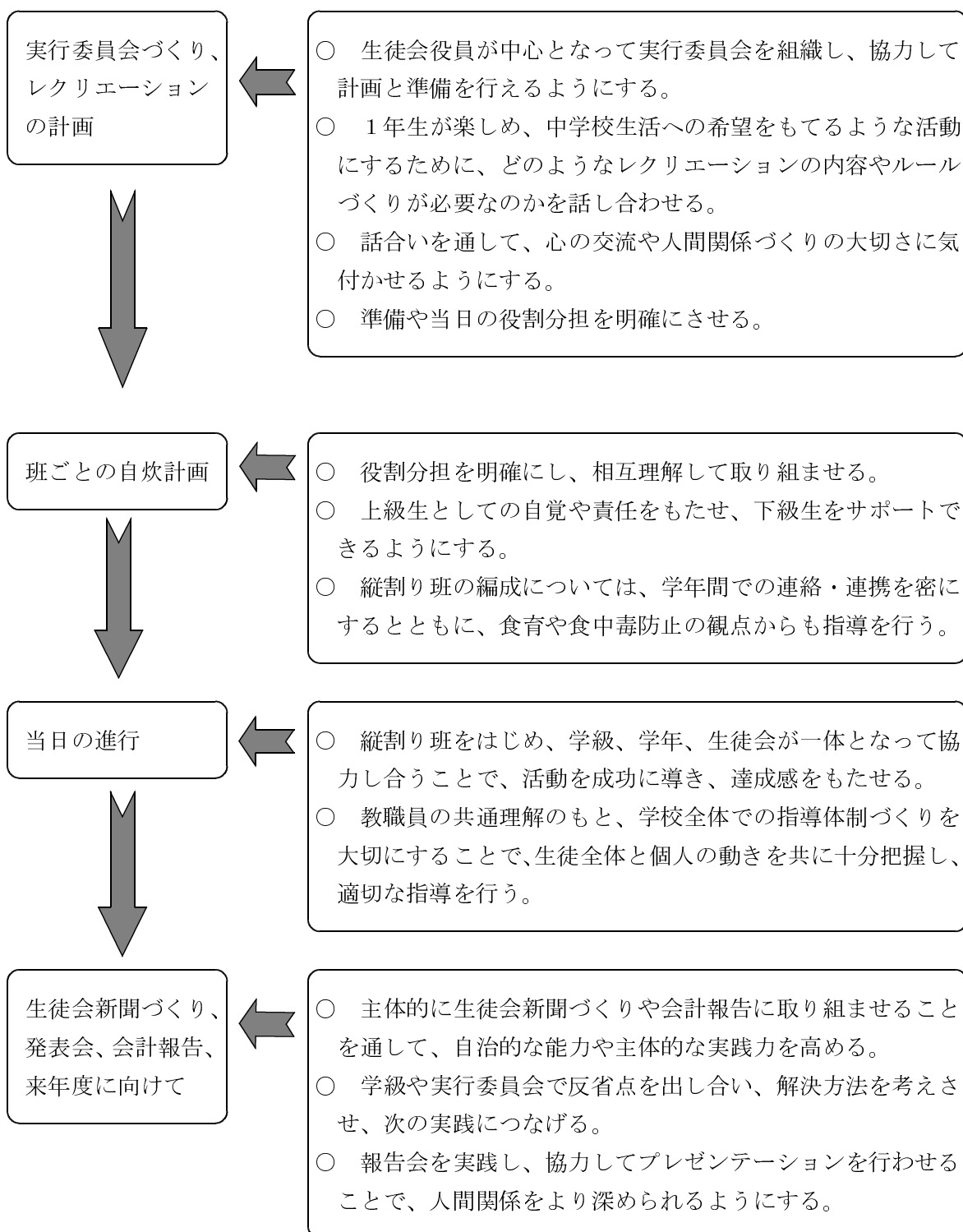


◆学校行事との関連を図りながら生徒会活動に位置付けた指導例

1 指導のねらい

- 新生徒会役員が中心となり1・2年生が参加することで異年齢集団の交流を図る。
- レクリエーションや自炊を通して、協力し合う人間関係づくりを目指す。
- 自分たちで計画し、話し合い、やり遂げることを通して、自主的、自治的に活動する態度や能力を高める。

2 指導の展開例



◆職場体験を学校行事に位置付けた指導例

1 指導のねらい

- 生徒が直接働く人と接することや、実際的な知識や技術・技能に触れることを通して、学ぶことや働くことの意義について理解を深める。
- 生徒が主体的に進路を選択・決定する意欲や態度を培う。
- 1年生と2年生が協働することにより、生徒の人間関係を更に深める。

2 指導の展開例

(1) 事前指導の工夫

- ① 職場体験で何を学ぶのかを明確にする。
- ② 体験の内容、きまり、マナー等の基本的事項の確認を中心とした事前指導と、生徒個人の自己理解、自己課題の発見、進路選択能力の向上などを目指した話し合い活動の両面の充実を図る。

(2) 具体的な内容

- ① 職業についての知識や理解を深め、自分の適性について考える。
- ② 働く人の姿に直接触れ、話を聞くことによって、職業の社会的な意義や役割について考える。
- ③ 社会人・職業人としてのルールやマナーについて知識を深め、規律や礼儀の大切さについて考える。
- ④ 地域の企業や事業所を知ることを通して「地域社会の中の自分」について考える。
- ⑤ 下級生と共に体験することにより、上級生としての自覚や責任感をもつ。(2年生)
- ⑥ 上級生のアドバイスのもと、仕事に取り組むことを通して、働くことの喜びを実感する。

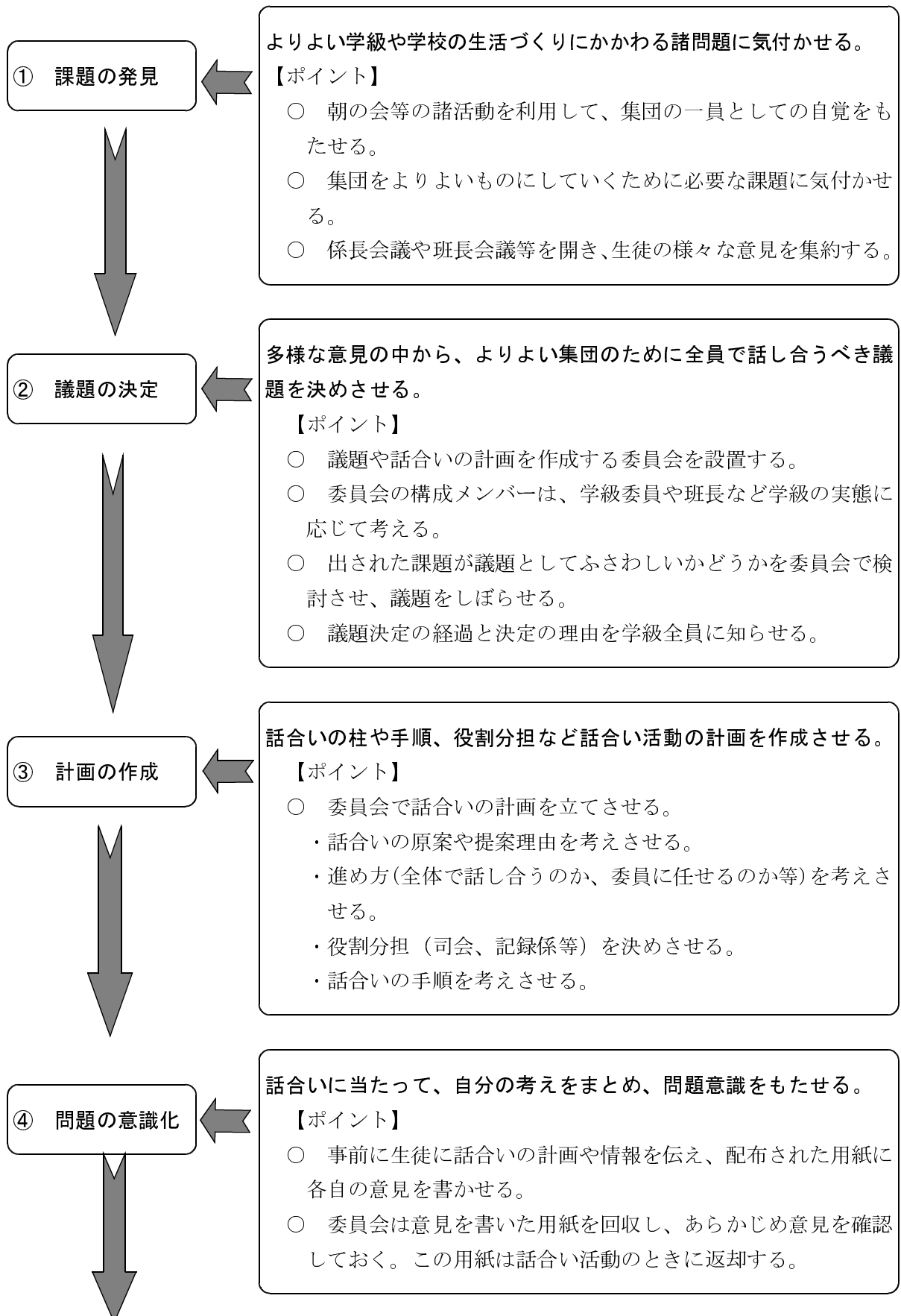
(1年生)

	1年生	2年生
1 日 目	<p>社会人講話</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働くことの意義、楽しさ、つらさ、やりがい等を聞き、職業に対する関心を高める。 ・職場体験のねらいや自分の課題を明確にもつ。 	<p>職場体験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職場に慣れる。 ・昨年の仕事内容を再確認し、職場の雰囲気や仕事内容に慣れる。
2 日 目	<p>職場見学</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職場の様子を見学する。 ・実際に働く人、雰囲気、仕事内容などを観察する。 ・上級生の活動を見学し、体験内容を確認する。 	<p>職場体験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕事内容を吟味し、効率よく作業が進む方法を考えながら、活動する。 ・作業を行う上でポイントとなることを確認し、下級生へアドバイスできることを考える。
3 日 目	<p>職場体験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上級生とペアになり、仕事を体験する。 ・上級生からのアドバイスを生かして活動することを通して、働くことの喜びを実感する。 	<p>職場体験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下級生とペアになり、アドバイスしながら作業をする。 ・教えることの難しさや喜び、協働することのよさを実感する。

※1年生の活動に当たっては、「中学生キャリア教育推進事業」と関連させて取り組むこともできる。

〈参考資料〉

○「話し合い活動」の手順



⑤ 話し合い活動

よりよい学級や学校の生活を送るために、集団として実践するための目標や方法、内容などを話し合い、決定させる。

【ポイント】

- 話し合いを活性化させるための方法
 - ・あらかじめ意見を書かせ、それを基に発表させる。
 - ・小グループで話し合いをさせ、グループ同士の意見を交流させる。
- 話し合いを向上させるための方法
 - ・理由を明確にして話すようにさせる。
 - ・多様な考え方や意見があることを認め合えるようにする。
- 多様な意見を生かしたよりよい集団決定の方法
 - ・様々な意見を分類し、いくつかにまとめたうえ、討議を深めて決定させる。
 - ・多数決により決定する場合であっても、十分に討議を尽くすことを大切にする。
 - ・特定の係に関する内容については、係に任せて決定させることもよい。
- 全員で合意ができなくても、集団決定したことは全員で守ることを確認させる。

⑥ 実践と振り返り

実践を振り返り、実践を通して学んだことを次の学級活動に生かす。

【ポイント】

- よかったことや、課題を班ごとに振り返り、班長が次の委員会で出し合うようにさせる。
- 委員会で出し合った課題については、次の話し合い活動に生かすようにさせる。

— 作 成 委 員 —

前 村 義 照	香 芝 市 立 二 上 小 学 校	校 長
今 谷 哲 夫	天 理 市 立 西 中 学 校	校 長
遠 藤 孝 晃	葛 城 市 立 新 庄 小 学 校	教 諭
松 室 明 夫	桜 井 市 立 桜 井 南 小 学 校	教 諭
吉 野 隆 博	香 芝 市 立 下 田 小 学 校	教 諭
武 田 厚 四	生 駒 市 立 生 駒 北 中 学 校	教 諭
高 島 智 春	奈 良 県 立 教 育 研 究 所	研 究 指 導 主 事
椿 隆 一	奈 良 県 教 育 委 員 会 事 務 局 学 校 教 育 課	指 導 主 事

(作成委員の職名等は平成21年度のものである。)